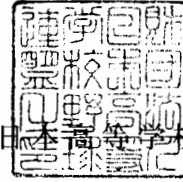




日本高野連発第W6137号
平成19年5月7日

長野県高等学校野球連盟

会長 堀 金 達 郎 殿



財団法人 日本高等学校野球連盟
会長 脇 村 春



投手の打球事故防止について(通達)

今般、春季大阪府大会で投手の胸に打球が当たり、その場に倒れて心肺停止状態となりました。これまで警戒していた心臓震とうによるものと思われます。試合会場は学校の敷地内のグラウンドで、保健体育科の教員である監督が心臓マッサージなどを始めました。たまたま観戦していた消防署の救急救命士が駆け寄り、代わって心肺蘇生法を行うと共に学校事務室脇に設置してあったAED(自動対外式除細動器)を作動させて救命に成功しました。

AEDは事故現場から約1分の場所にあり、作動は事故発生からおよそ3分と見られています。心臓震とうに対するAEDの作動は5分以内が救命の目途とされており、今回は関係者の迅速な処置が功を奏したもので、打球が当たって心肺停止状態となってAEDによる初の救命例となりました。

つきましては、この機会に貴連盟加盟校に対し、以下の点を注意するようご指導いただき、投手の事故防止に努めていただきたいと思います。

なお貴連盟におかれては、引き続き役員、審判員、指導者に対し、AEDを使った救急救命講習会の受講を促進させると共に、大会使用会場管理者にAED設置の要望をしてくださるよう、よろしく願いいたします。

記

1. 投手は打者に一番近い野手で、常に打球の処理を頭に入れ、投球後の守備態勢をとること。
2. 打撃練習時の投手は、必ずヘッドギアを装着すること。
3. 複数打席で打撃練習をするときは必ず時間差を設け、打球を処理する投手、野手に危険がないよう留意すること。
4. 指導者はAEDを使った救急救命講習会を受講し、不慮の事故に備えること。
5. 練習や試合を行う会場付近でAEDの設置場所を必ず確認し、野球部員にも周知させておくこと。
6. 心臓震とう予防の胸部保護パッドが開発、市販されています。危害予防に活用く

ださい。

＜参考＞ 今回の事故に際し、プロ野球選手会を通じて投手の守備に定評のある、千葉ロッテマリーンズ・小宮山 悟投手から次のアドバイスをいただきました。投手に守備態勢を指導する際の参考にしてください。

「投手への打球は当たり前だが、バッターボックスから飛んでくる。投球したあとバットに当たる瞬間をみたときに、自分のところに飛んでくるんだと思うことが大切である。自分のところにはこないだろう、と高をくくっていると体も反応できず、当たるものだ。自分も何回か当たったことがあるけど、気を抜いているときであり、自分のところにくるもんだと思っていたら最低でも避けることはできる」

以上

30日午前10時20分ごろ、大阪府岸和田市の私立・飛翔館高校であった春季近畿地区高校野球大会府予選の飛翔館―桜宮戦で、三回表の桜宮の攻撃中、打球が飛翔館高2年の投手(17)の左胸下を直撃した。投手は倒れ、心肺停止状態になったが、観戦していた岸和田市消防本部の救急救命士の男性(39)が心肺蘇生法を実施。救急車が到着するまで

救急救命士命をキヤッチ

大阪・観戦中の高校野球

に自発呼吸が戻り、意識も戻った。投手は、約1週間の入院が必要だが、回復に向かっているという。

同消防本部などによると、打球が投手の胸を直撃すると、投手がマウンド上でうずくまって倒れ込んだ。たまたま子供連れで観戦していた近所に住む救急救命士がマウンドに駆け寄り、心臓マッサージと人工呼吸を施した。さらに、高

胸に打球 心肺停止の選手を蘇生

校備え付けの自動体外式除細動器(AED)を使って心臓に電気ショックを与え、心拍が戻ったと言う。

府高野連の伊原登理事長は「救急救命士の方がいてくれて助かった。投手の命を助けていたなき、感謝しています」と話した。日本高野連は数年前から高校野球の試合が開かれる球場へのAED設置を推進しているが、AED使用で球児が助かったケースは初めてという。

【根本毅、内田幸一】